

全信保労連第 65 回定期大会あいさつ

全国金融労働組合共闘会議幹事 伴邦雄

大会のご成功おめでとうございます。

ご紹介いただきました、全国金融共闘幹事の伴と申します。金融労連で執行委員をしていて出身は神奈川銀行従組です。

本来なら、浦上議長がごあいさつしなければならないのですが、所属の全損保の日程と調整がつかず、幹事会を代表して私がごあいさつさせていただきます。

全信保労連の皆さまには、日頃から全国金融共闘の諸活動にご支援いただきありがとうございます。特に毎年行われる官庁への要請行動は意思統一集会から参加をいただき、金融共闘として情勢の議論や取り組みの報告を通じ、同じ金融といいながらよく知らない他業態の仕事や働き方について理解を深め合う機会となっています。

その中で感じるのは、全信保労連の皆さんは非常にまじめで紳士的で、銀行員より銀行員らしく見えることです。議案を拝見させていただいてその理由が分かりました。

生活や労働条件の向上はもちろんのこと、保証協会の機能強化や協会の意義を問い、中小業者の経営の安定、発展を考え、その先に自分たちの労働条件向上があるという信念のようなものがあるということです。それがみなさん一人一人に保証協会の業務に対するほこり、責任を感じさせるのでしょう。

ところで、銀行を中心とした金融機関の動きですが、日銀のマイナス金利解除から金利のある世界に戻り、収益は上昇傾向にあります。「お客様や地域によりそう」という企業理念も打ち出され、融資も積極的に行われています。一方で、経費の引きしめで収益を確保する姿勢は強化され、店舗の統廃合や人員削減、手数料の引き上げが続いています。A町とB町にあった支店がA町に統合され融資や渉外係がA町に集約された結果、お客様はいちいちA町に行かなければならない。渉外係も移動距離が増えて時間がとられ、かえって非効率になっています。

両替はもちろん、金種を指定した引き出しにも手数料がかかります。先日、金融労連のお金を払い出しに某都銀に行ったら、数字を書かれた紙を渡されて、呼ばれるとお金を渡されるのかと思っていたら「どうぞこちらへ」と別室に案内されたそうです。そんなに大金ではないのだけれどと思っていると、中に出納マシンが置いてあり、紙に書かれた暗証番号を入れて自分で操作してくださいと言われてびっくりしたそうです。手数料を払ったのに自分で操作するなんて、と怒っていました。

また、私のつとめる銀行でも、旧紙幣や記念硬貨の入金に手数料を取るという通達が出ました。旧紙幣や記念硬貨は機械を通らないし、たしかに面倒だよなと思いつつ喜んでいて、一枚から手数料をとると書いてありました。その額 900 円！

聖徳太子（旧紙幣一万円）だったらいいですが、伊藤博文（旧千円紙幣）だったら実質 100

円しか入金できません。板垣退助（旧百円紙幣）だったら逆に 900 円のマイナスです。

こうした話を聞いて思うことは、銀行はもはやお客様に店には来てほしくないと言うことです。お客様によりそうといいながら、やっていることは反対です。お客様によりそう経営をするためには、従業員一人一人がいきいきと働ける職場が必要です。自分の日々が不安定で健康的でない中から働く意欲はわいてきません。人材確保の観点から大手金融機関の初任給が大幅に引き上げられ、連動して 20 代の層の賃金も引き上げられましたが、中堅層や子どもがいて生活負担の大きい層のケアが手うすになっています。

人員が減られ一人一人の業務負担が大きく、仕事に分からなくて教えてほしくても先輩も上司も忙しそうで、質問することもためられる。給料が上がっても若年層の退職者が多いのは、こんな仕事の仕方での自分の時間がとられるのはバカバカしいと思っているからではないでしょうか。金融の仕事は経験の積み重ねです。目利きは急にできるものではありません。若いうちからしっかりと育て、ベテランの経験を大事にして処遇も充実させる、そんな経営が求められています。

私たちは、皆さんのように、自分の仕事にやりがいとほこりを持ち、お客様や地域に信頼される金融マンになりたいと思います。そのために、職場の一人一人の組合員の声を聴き、組合に団結して要求を前進させていきたいと思います。全信保労連のみなさんとも、同じ金融の仲間として団結して、私たちの要求を前進させましょう。

本日の大会で実りある議論をされ、全信保労連のさらなる強化発展を祈念してあいさついたします。

本日はありがとうございました。